

前線に伴う大雨よる現地調査 (佐賀県嬉野市)

嬉野市からの支援要請により、令和3年8月25日に嬉野市大舟地区、大草野南下地区で発生した大規模地すべりにおいて、現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、学識者による現地調査を実施した。

出席者:九州大学大学院 水野准教授

● テックドクターによる調査

現地調査状況(大舟地区)



現地調査状況(南下地区)



会議状況



村上市長

水野准教授

【大舟地区について】

- ・200m×200mのブロックの地すべり。横ポーリングで地下水を下げること。
- ・概ね一週間を目処に伸縮計の動きがなければ避難解除は可能。ただし、大雨が降れば避難する必要がある。

【南下地区について】

- ・100m×200mのブロックの地すべり。横ポーリングで地下水を下げること。
- ・伸縮計をもう1台追加し、落石防護柵の容量確保のため掘削を行う。
- ・避難解除については、大舟地区と同様。